園長

特集:ウホウホ ガォーン、動物園の旅

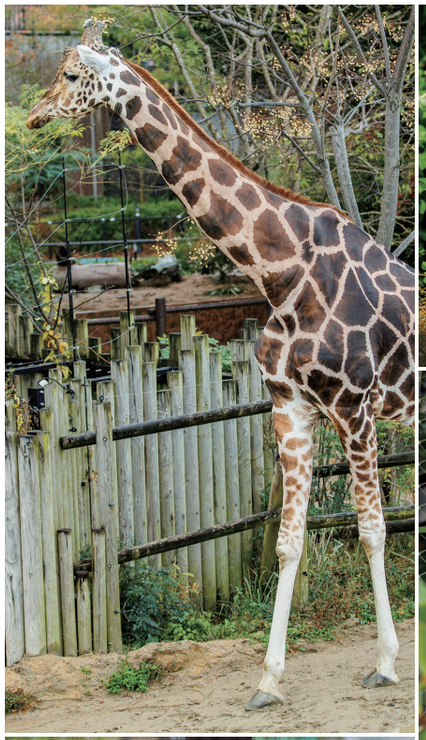
今も作り続ける、市民に愛される森

北九州市民はもちろん全国にも多くのファンを持つ「到津の森公園」。
今回は園長の岩野俊郎氏に“これからの動物園”について伺った。

北九州市小倉北区に位置する動物園と遊具施設を要した自然環境教育施設「到津の森公園」。その名の通り、多種多様な木々に覆われた園内には、約90種480頭羽の動物が飼育されている。

この園の歴史は古く、前身となる「到津遊園」が開設したのは1932年。西鉄の前身である九州電気軌道株式会社(現・西日本鉄道株式会社)が創立25周年の記念事業として誕生した。1970年代には年間80万人の入場者を記録したが、少子化や人口減少に伴い来場者も減少(出典:前北九州市長 末吉興一聞き書き 挑む。巧む。走る。西日本新聞社発行)。2000年に「到津遊園」としての営業を終了した。しかし、北九州市民を中心とした26万人から存続の要望を受け、2002年に「到津の森公園」として再開園を果たす。岩野俊郎氏は再開園から約20年間、この園の園長を務めている。そんな岩野園長にこれからの動物園について伺った。

Mother Comet



木々の間から動物を見つけるという楽しさ

周囲の自然を生かした園内は密林を思わせる作りに。

木々に覆われた園内はさながら山林のようで、遠くから聞こえるテナガザルの声も相まって、ここは何処だろう？と一瞬思ってしまう。そんなことを考えていると岩野氏が「ここは前からあった常緑樹の自然林と開園当初に植樹した落葉樹が混ざりあって、今の景観を作っているんです」と話してくれた。「南ゲートからはデッキを渡って動物がいるエリアへ向かうのですが、このデッキができた当初はこんなに木で隠れていなかったんです」と岩野氏。そうして歩いていくとこの園の違和感に気づく。「動物園なのに匂いがしないと思ったでしょ？ 実は（動物の）ケージの下は全て土なんです。コンクリートだと動物の糞尿が残り匂いを発してしまうんですが、土ならしばらくすると分解されます。掃除は土の方が数倍大変ですが、匂いがない方が良いと思って土に変えました」と岩野氏は匂いのしない園内について説明した。しかし園の違和感はそれだけではなかった。ほとんどの動物と人の間に植物が設けられているのだ。それについても岩野氏は「この園では次の動物が見えないように木を植えたり、道を作ったりしています。木と木の間からほんの少し覗かせて、向こうに何かいるかも?!という期待感を持って歩いてもらいたいので。またケージの前にも植栽がありますが、動物が人間から隠れやすいようにして、より自然な姿を見てもらえるようにしています」と教えてくれた。

ケージの中や周辺は、動物の活動がより自然に見えるようにさまざまな工夫を凝らしている。例えばレッサーパンダのケージには彼らが外と中を自由に出入りできるように仕掛けられている。また、トラやキツネザルのケージの前には南国の植栽が植えられ、ジャングルやマダガスカル島のイメージを作り出し、その世界に没頭できる環境を整えている。動物との安全な距離を保ちつつ、植栽やケージ内を工夫することでその距離を縮めているのだ。

その土地の規模や風土にあった運営から“動物園ではない動物園”を目指す

動物園は画一的な場所である必要はない。
状況や規模、予算に応じたここだけの動物園を目指す。

今まで見てきた動物園とこの園は何かが違う、そう岩野氏に伝えると彼は「ここが到津の森公園だからです」と事も無げに答えた。確かに動物園特有の匂いもしないし、至る所に植栽があり、散策しているような気分で園を歩くことができる。動物を展示しているというよりは動物の生活を垣間見ることができるという方が的確かもしれない。そこには岩野氏のこんな思いがあった。

「まずは公共施設として人にも優しい場所でないといけません。再開園してすぐ、当時の副市長から園内の景観を損なうゴミ箱を撤去するように言われました。当時はびっくりしましたが、副市長は『苦情があったら全部私が聞くので』とおっしゃったので実施しましたが、そのおかげでゴミ持ち帰りのマナーが徹底されています。10年前に園内の灰皿を全て撤去した時も不満が出るという意見がありましたが、今は灰皿がある方が苦情となるぐらい世の中も変わりました。そういったお客様にもスタッフにも優しい施設である事も重要なんです。また、近年ヨーロッパの方で言われている『ノン・ズー』、つまり動物園ではない動物園という考え方も必要だと思います。それは従来のように世界中の動物を収集して展示するのではなく、その土地の気候や園の規模にあった動物の生態系に触れられる動物園です。脱炭素や化石燃料の不使用などが推進される現代において、野生動物を保全する立場の私たちは、よりそのことについて考えなければいけません。今まであった自然を残しつつ、植樹を行い、小さくても楽しめる施設を提供することは必然だと思います」。岩野氏はこういった新しい考えを取り入れることが重要だと話す。

SDGsという言葉ができる前から持続可能な園運営をしてきた「到津の森公園」は、これからどんなゴールを目指していくのだろうか。

園内の動物紹介ボードは飼育員のお手製。実施当初は下手だったが最近上手になったと岩野氏も太鼓判を押す。
また園内にはいくつも実のなる木があり、その実は人も食べられるけど、時に動物の餌として与えている。
キツネザルのケージの網の一部は、動物が見やすく開発したものを導入している。

今回の旅のメモ。

今回の旅で訪れたのはこちらです。

profile

岩野俊郎 / 到津の森公園 園長

山口県下関市出身。犬や猫など、常に動物がいる家庭に生まれた岩野氏は、幼いころ読んだ『積みすぎた箱舟』(ジェラルド・ダレル著)や現在ニホンザルの研究者として活躍する兄の影響で、獣医師を目指す。1972年、日本獣医畜産大学獣医学科卒業し、翌年、当時西日本鉄道が運営していた「到津遊園」に就職。1997年に同園の園長に就任したが2000年の閉園に伴い、西日本鉄道を退職する。その後、52団体、計26万人から存続の要望があり、2002年に「到津の森公園」が開園。岩野氏は同園の初代園長に就任し今に至る。著書には『戦う動物園ー旭山動物園と到津の森公園の物語』(小菅正夫・岩野俊郎著、島泰三編集 / 中央公論新社)、岩野氏が翻訳した『動物園動物のウェルフェア Zoo Animal Welfare』(Terry Maple, Bonnie M Perdue他 / 株式会社養賢堂)がある。

到津の森公園

福岡県北九州市小倉北区上到津4-1-8　TEL.093-651-1895　www.itozu-zoo.jp

[営業時間]9:00～17:00　[休園日]火曜、年末年始

[料金]大人800円、中・高校生400円、4歳～小学生100円

access

到津の森公園まで

[公共交通機関で]･･･ 北九州空港から北九州エアポートバスでJR小倉駅へ。
小倉駅バスセンターから西鉄バス[26]北九州パレス前行に乗車し、到津の森公園前下車。バス停から徒歩約1分。

[車で]･･･････････････ 北九州空港から県道254号を経由し、苅田北九州空港ICから東九州自動車道に入る。北九州都市高速1号線、到津トンネル/都下到津3号線を経由し下到津ランプを出る。到津トンネルをくぐり戸畑バイパス(国道3号線)方面へ。国道3号線を福岡方面へ右折。「井堀五丁目」交差点を左折し、約300m。へ。北九州空港から約37分

more information

「到津の森公園」に関わるあれこれ

park

到津の森公園

九州の北部・福岡県北九州市小倉北区にある、動物のいる公園。「市民と自然を結ぶ『窓口』となる公園をめざす」を基本理念に、自然・動物・人に優しい施設づくりを実施。約10haの園内にはさまざまなゾーンに分けられた動物園のほか、遊具施設もある。

福岡県北九州市小倉北区上到津4-1-8
TEL.093-651-1895
www.itozu-zoo.jp/

sns

YouTubeチャンネル

Youtube到津の森公園公式チャンネル。5年前からスタートしたこちらのチャンネルでは、園内の動物たちの様子が動画で見ることができる。生まれたばかりの赤ちゃんの動画や「飼育動物の裏側を知ろう！」シリーズなど、ここでしか観られないコンテンツも多数。

@到津の森公園公式チャンネル

book

戦う動物園
旭山動物園と到津の森公園の物語

「行動展示」で注目を集める北海道旭川市の旭山動物園の園長・小菅正夫氏と岩野俊郎園長が語る、人と動物と社会のおりなすドラマを描いた一冊。苦難の時代を乗り越え、チャンスを形にした両園長の物語は、まさに小説より奇なりと思わずにはいられない。

小菅正夫・岩野俊郎著、島泰三編集
中央公論新社

ゴールはない、発展していくことが重要

独自の動物園を形成した「到津の森公園」が次に目指すのは
子どもや家族以外も楽しめる場所

20年かけて作り上げたこの園は、今や唯一無二の場所といっても過言ではない。そんな現状について岩野氏は「動物園にゴールはありません」と話す。「例え今がベストでも未来はわからない。時代に応じて変化し発展することが大切」とのこと。そんな岩野氏が伝えたいことは「アイコニックな動物がいない動物園の良さ」だ。ゾウやキリンがいない動物園でもどうすれば皆に愛されるかを考えているという。「例えば動物の数を減らして群れを作る動物は群れで飼育し、その生活を見せるという方法もあります。他にもここは26万人に支持されて開いた場所なので『到津』を園の名前に付けましたが、地域に根ざした運営もその一つです。また、動物園＝子どもというイメージがありますが、若者やご年配の方も楽しめる場所づくりもこれからは重要ですね」。地域と共に進化する動物園、それが「到津の森公園」なのだ。

園内にはミモザがいたるところにあり、2月下旬から見頃を迎える。こういった季節の景色もこの園の魅力の一つ。
また、現在アガパンサスを植え6月の見どころも作成中とのこと。